

【熊本県PTA連合会賞】

「植林人生」を読んで

あさぎり町立あさぎり中学校 1年 宮原 瑠菜

このお話は、犬童敬太郎さんという人が立派な山林を育てるために尽くした生涯が描かれている話です。私は、この話を通して、3つのことを学びました。

まず、自然を大切にすることです。私は、今、敬太郎さんが一生懸命植林されたあさぎり町に住んでいます。この話を読んで、今、あさぎり町が自然豊かなのは、敬太郎さんのような先人の方たちのおかげだと思います。敬太郎さんは、自分のことや目の前のことだけを考えるのではなく、未来のことなどを考えて行動してくれていたのだと思うと、感謝の気持ちでいっぱいになります。自然は無限にあるものではありません。一生懸命に未来のことを考えて行動してくれた先人の方たちの気持ちを私たちが引き継いで行動していかなければならないと思います。私も自然が大好きです。大好きな自然を守るために、一つ一つの行動を意識していかなければならないと思います。たとえば、無駄なものを買わない、物を大切にすることなどが考えられます。私たちは、先人の方たちがしてきたように環境に優しい生活を見習って行動していきたいと思います。

2つ目に、思いやりの心を持つことの大切さについて学びました。周りの人だけでなく、身の回りの物や植物までも大切にすることを敬太郎さんの言動から思いやりの心を学びました。私は、これから、誰に対しても、何に対しても平等に接し、常に思いやりの心を持っていられるようにしたいと思います。

3つ目は、見通しを持つ力、計画性、行動力の大切さです。敬太郎さんは、未来の地域のこと、未来の人々のことなどを見通し、美しい地域にするために計画を立て、それを実現させるために行動していました。その敬太郎さんの行いから、見通す力、計画性、行動力を持って生活することの大切さを学びました。私は、これからたくさん経験を積んで、それらの力を身に付けていきたいと思っています。そして、敬太郎さんのように自分で考えて人の役に立つことを進んでできるようになりたいと思います。

最後に、私は、この「植林人生」を通して、これからの生き方を学びました。敬太郎さんのような生き方を自分も見つけ、これからは生かしていきたいと思っています。そして、故郷あさぎり町の一員として、地域のために尽くされた方をもっと学び、町の良い所をもっと見つけて、このあさぎり町が故郷だと誇りを持って言えるよう、努力をしていきたいと思っています。